

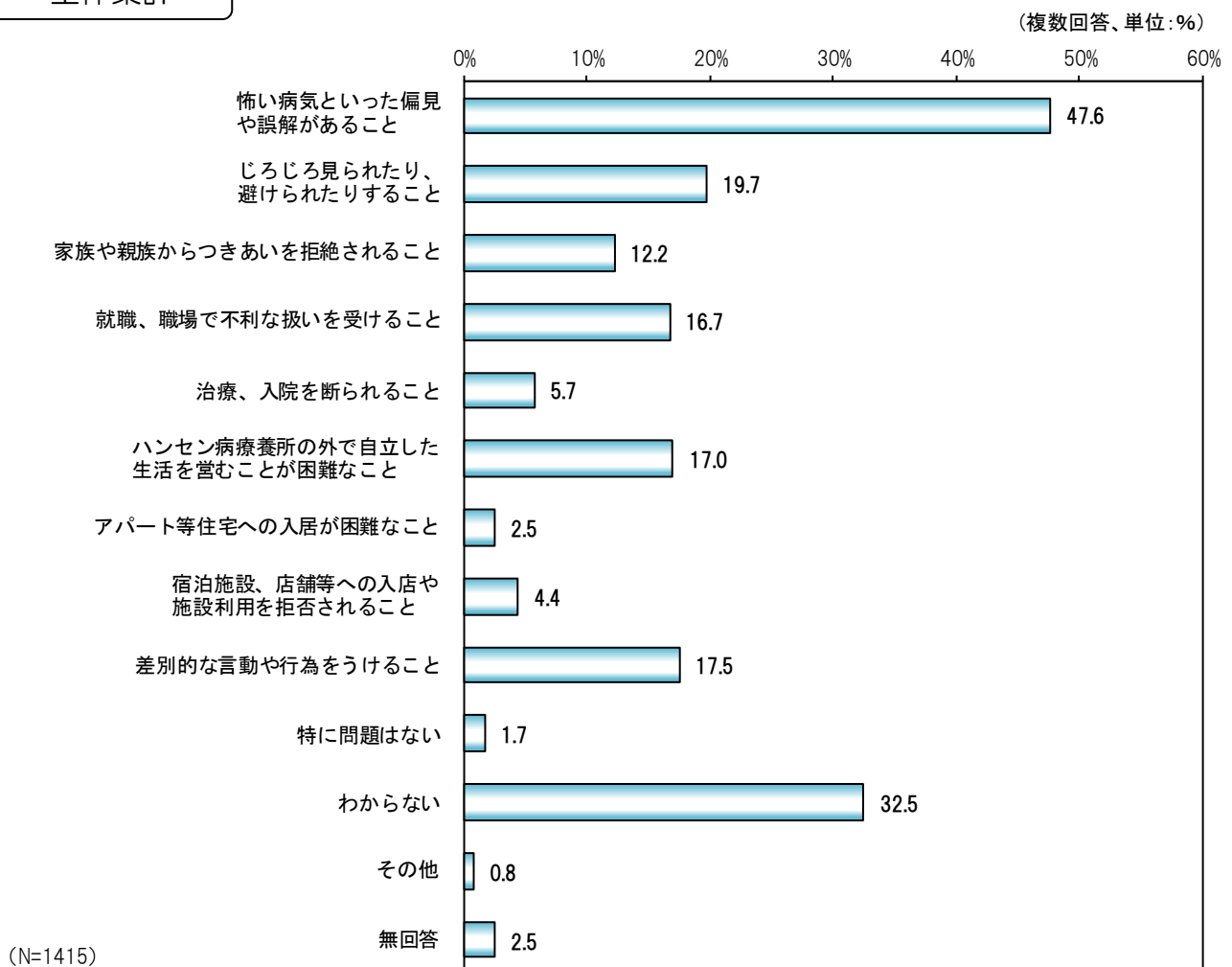
10. ハンセン病患者の人権について

問24 ハンセン病患者や元患者とその親族に関する人権上の問題点

あなたは、ハンセン病患者や元患者とその親族に対して、人権の尊重という点からみて特に問題があると思われるのはどのようなことですか。次の中から選んでください。(〇は3つまで)

1. 怖い病気といった偏見や誤解があること
2. じろじろ見られたり、避けられたりすること
3. 家族や親族からつきあいを拒絶されること
4. 就職、職場で不利な扱いを受けること
5. 治療、入院を断られること
6. ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むことが困難なこと
7. アパート等住宅への入居が困難なこと
8. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること
9. 差別的な言動や行為をうけること
10. 特に問題はない
11. わからない
12. その他 ()

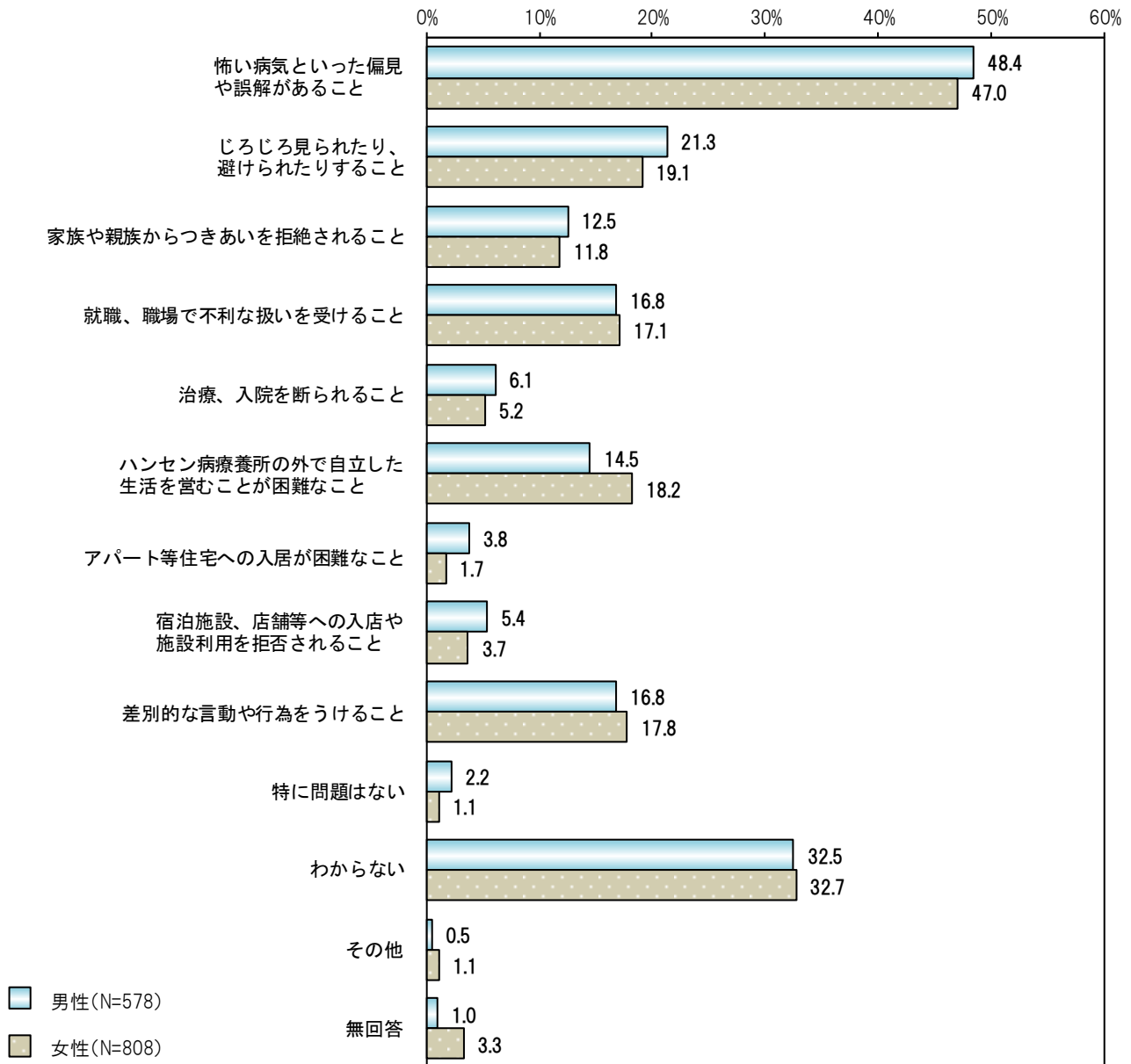
全体集計



「怖い病気といった偏見や誤解があること」の割合が47.6%と最も高く、次いで「わからない」が32.5%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が19.7%となっている。

性別集計

(複数回答、単位: %)

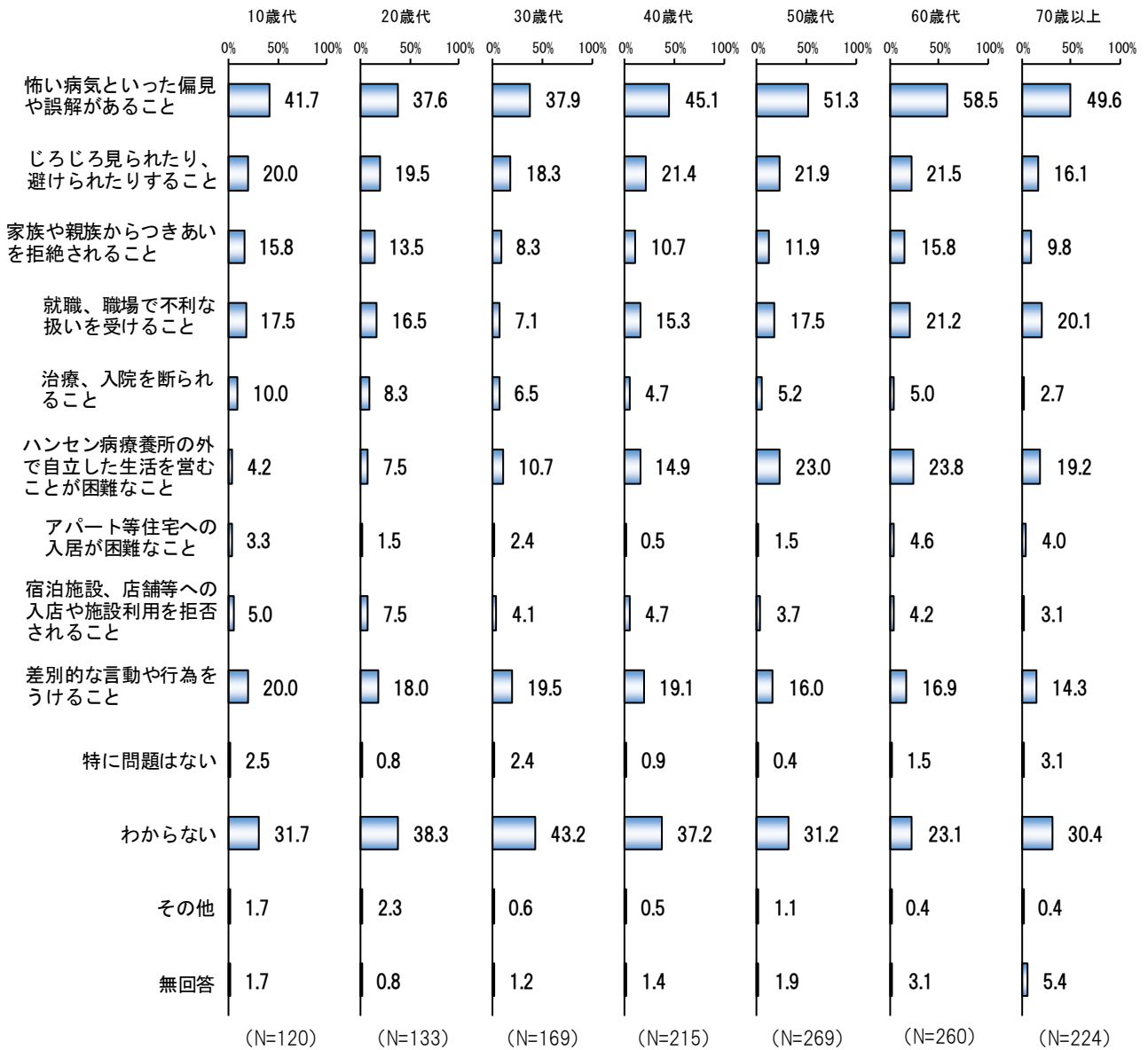


性別で見ると、男女ともに「怖い病気といった偏見や誤解があること」の割合が最も高く、次いで「わからない」、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の順となっている。

「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むことが困難なこと」が最も男女差が大きく、男性(14.5%)よりも女性(18.2%)の方が3.7ポイント高くなっている。

年齢別集計

(複数回答、単位:%)



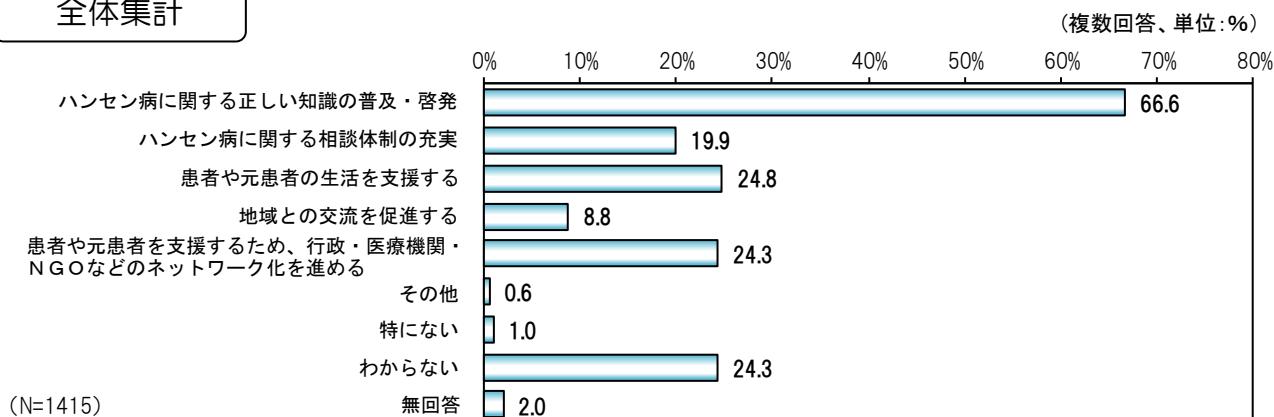
年齢別でみると、10歳代、40歳代以上は「怖い病気といった偏見や誤解があること」、20、30歳代は「わからない」の割合が最も高くなっている。

問 2 5 ハンセン病患者や元患者とその親族の人権を守るために必要なこと

あなたは、ハンセン病患者や元患者とその親族の人権が守られるために、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。次の中から選んでください。(〇は3つまで)

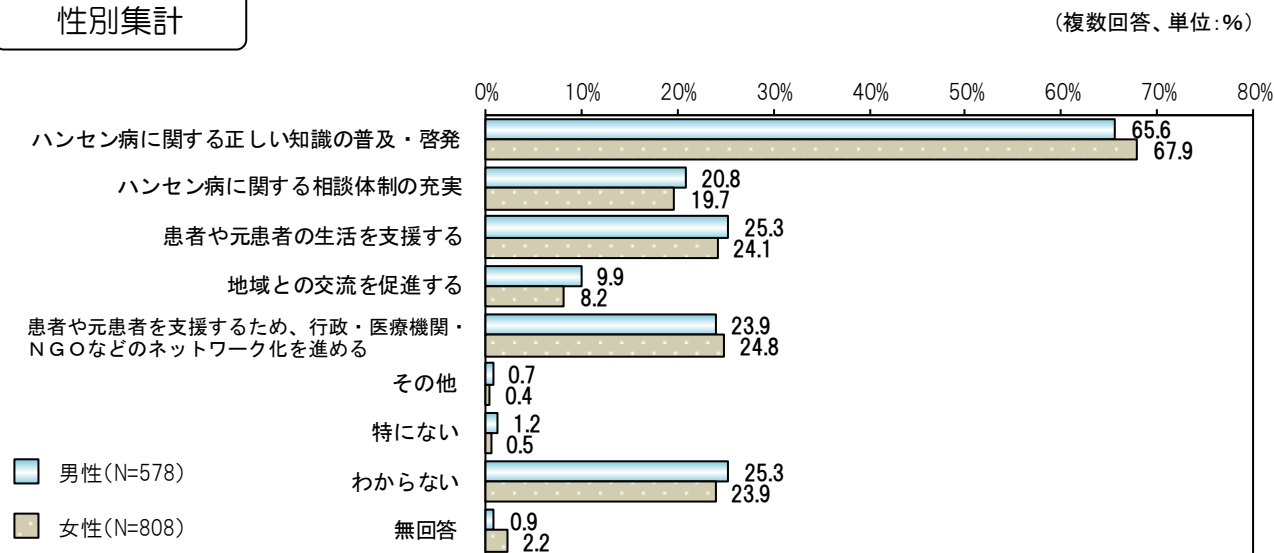
1. ハンセン病に関する正しい知識の普及・啓発
2. ハンセン病に関する相談体制の充実
3. 患者や元患者の生活を支援する
4. 地域との交流を促進する
5. 患者や元患者を支援するため、行政・医療機関・NGOなどのネットワーク化を進める
6. その他 ()
7. 特にない
8. わからない

全体集計



「ハンセン病に関する正しい知識の普及・啓発」の割合が 66.6%と最も高く、次いで「患者や元患者の生活を支援する」が 24.8%、「患者や元患者を支援するため、行政・医療機関・NGOなどのネットワーク化を進める」、「わからない」が同率で 24.3%となっている。

性別集計

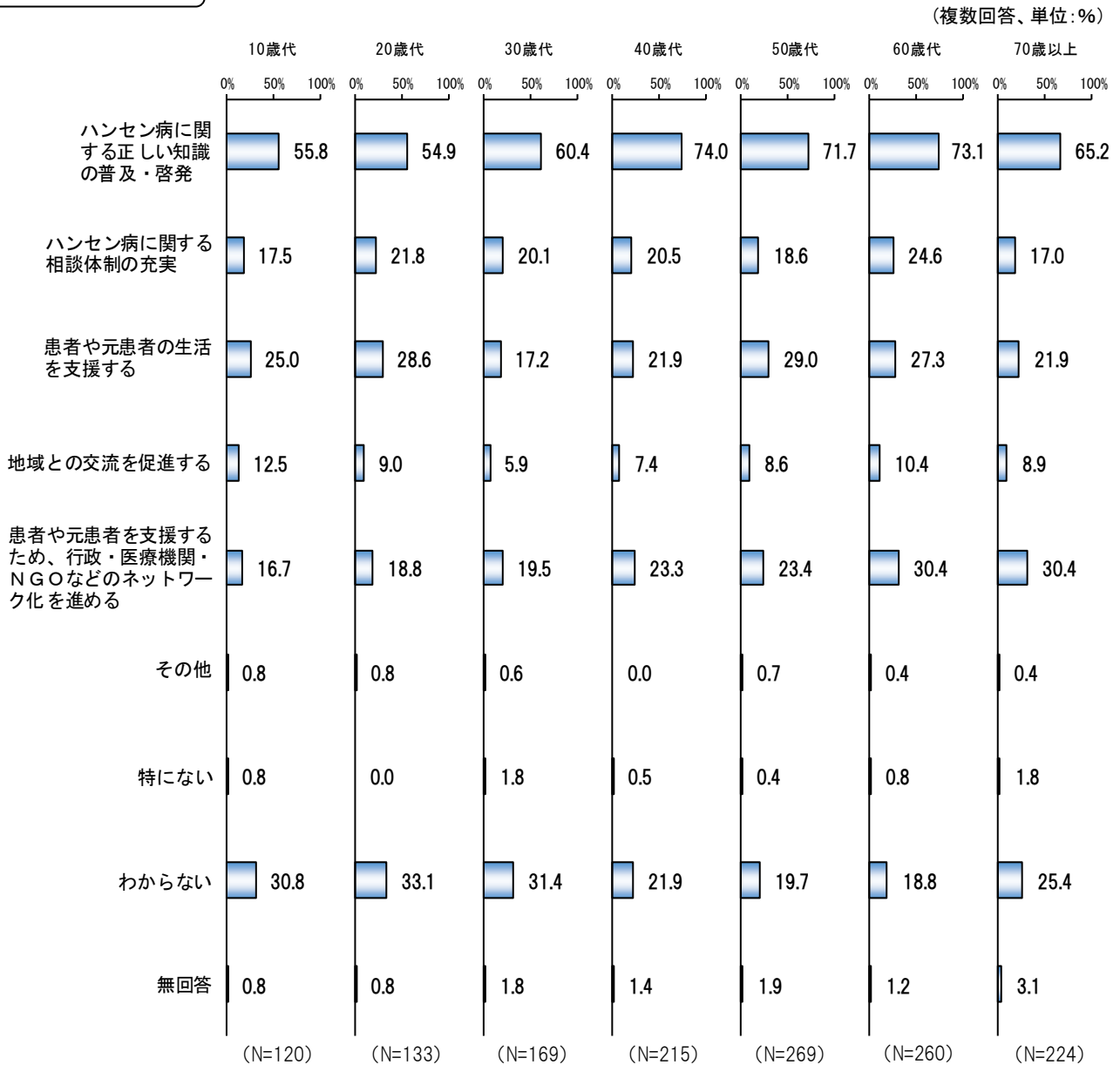


性別でみると、男女ともに「ハンセン病に関する正しい知識の普及・啓発」の割合が最も高く、第 2 位は男性が同率で「患者や元患者の生活を支援する」、「わからない」、女性が「患者や元患者を支援するため、行政・医療機関・NGOなどのネットワーク化を進める」となっている。

女性の第 3 位は「患者や元患者の生活を支援する」となっている。

「ハンセン病に関する正しい知識の普及・啓発」が最も男女差が大きく、男性 (65.6%) よりも女性 (67.9%) の方が 2.3 ポイント高くなっている。

年齢別集計



年齢別でみると、すべての年齢層で「ハンセン病に関する正しい知識の普及・啓発」の割合が最も高くなっている。